

Ⅱ. イベント・セミナー等開催報告

Ⅱ－１. 北洋銀行ものづくりテクノフェア 2010

8月20日（金）に札幌コンベンションセンターにて開催された「北洋銀行ものづくりテクノフェア 2010」（主催：北洋銀行）に出展しました。このフェアは、優れた技術や製品を有する中小企業、大学、支援機関等が参加し、北海道のものづくり産業の振興のため、販路拡大、企業間連携の促進、情報交換、技術交流を行うものです。132の企業・大学等が出展し、約3,200名の来場者がありました。

ビジネス創造センター（CBC）は、「環境経営」をテーマとして「環境・エネルギー」コーナーに出展。CBC研究部スタッフ・加賀田和弘商学科准教授の研究「環境経営への取り組みと経営戦略・事業戦略および競争優位に関する研究報告」をパネルによって紹介しました。

会場では、加賀田准教授はじめ CBC スタッフが来場者からの質問に答えるなど対応をしました。



左より加賀田和弘准教授、山本眞樹夫学長、
海老名誠センター長、澤田芳郎教授



CBC ブース

Ⅱ－２. シンポジウム「人間中心（住民中心）から行政事業を考える」

ビジネス創造センター（CBC）UX研究部門では、6月20日（日）に、「人間中心（住民中心）から行政事業を考える」と題したシンポジウムを、日本人間工学会 情報社会人間工学部会との共催にて開催しました（於：小樽商科大学札幌サテライト）。本シンポジウムは、日本人間工学会 情報社会人間工学部会の平成11(1999)年からの取り組みによるものです。行政事業における人間中心アプローチについて、行政の様々な現場で日頃ご活躍されている講師の方々をお招きし、ご講演いただくとともに、会場も交えたパネルディスカッションを実施したものです。学内外から約20名の方々にご参加いただき、活発な討議が行われました。講演者は次の通りです。

- 金田博恵氏（札幌市観光文化局 観光コンベンション部観光企画課計画担当係長）
- 高野伸栄氏（北海道大学大学院工学研究科 准教授）
- 前原功治氏（北海道ニセコ町役場商工観光課観光戦略推進係係長）
- 平沢尚毅（日本人間工学会 情報社会人間工学部会長，
小樽商科大学 社会情報学科 教授，ビジネス創造センター UX 研究部門長）

なお、本シンポジウムは、特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構のご後援をいただいて開催いたしました。

ご協力くださった講師，会場のみなさまに御礼申し上げます。



金田博恵氏



高野伸栄氏



前原功治氏



パネルディスカッション

Ⅱ－3. 第6回3大学・地域共同研究センター定期情報交換会

ビジネス創造センター(CBC)、福島大学地域創造支援センター、滋賀大学産業共同研究センター及び地域連携センターの三大学の地域共同研究センターのセンター長及び関係者が集まり、9月27日(月)－28日(火)に滋賀大学大津サテライトプラザで「第6回三大学・地域共同研究センター定期情報交換会」を開催しました。

CBCからは、海老名センター長、大津副センター長、澤田教授、蔵重係長の4名が出席しました。

第1期中期目標期間も終了し、国立大学法人の運営費交付金については毎年減少の一途をたどっており、来年度は一律10%カットもささやかれている中で、国立大学法人は教育・研究に続く第3の使命として地域貢献・社会貢献を果たすことが求められているところです。

今回は、このような状況を踏まえて、いかに有効かつ効率的にその使命を果たすことができるかを議題の1つとして取り挙げ、各センターから今後実施予定されている活動の報告がありました。

第2の議題として、今回で6回目となる三大学情報交換会を有効且つ効率的に今後も開催することが可能かを討議し、これまでの情報交換のスタイルでの開催は今回をもって使命を果たしたとして、今後はこの三大学の人材ネットワークを活かした連携事業の開催を検討することとしました。

続いて地元との連携事例「地元の視点から」と題して彦根商工会議所業務課長の安達昇氏から彦根市と滋賀大学との連携事業についての事例紹介がありました。



滋賀大学



同志社大学

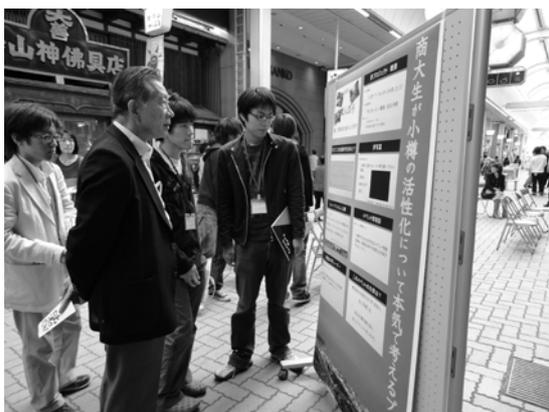
2日目の28日は、同志社大学を訪問し、三大学からの各大学の社会貢献の取り組み発表に続き、同志社大学から同大学における事業内容の発表がありました。引き続き質疑応答に入り、三大学から同志社大学の活動について種々質疑が行われました。今回の訪問で同志社大学(私立大学)における産学官連携事例について学ぶことができ、今後の地域貢献活動の一助とする知見が得られました。

(写真提供：滋賀大学)

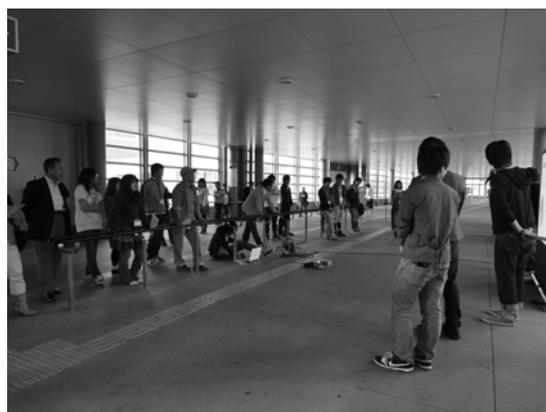
Ⅱ－４． 商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト(マジプロ 2010) 中間報告会

9月23日(木祝)に、サンモール一番街商店街および小樽築港マリロードにおきまして、ビジネス創造センターが活動を支援する「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト(マジプロ 2010)」の中間発表会が開催されました。このプロジェクトは、本学の学生が小樽のさまざまな課題に対して、調査、分析、提案をする正課講義「地域連携キャリア開発」で実践されているもので、22年度は26人の受講学生と大津ゼミの3年生12人が、①小樽築港エリアの活性化策の提案、②中国・ロシアへの小樽PR戦略の立案、③中心市街地活性化イベントの実践、④歴史的建造物の利活用策の実践の4つの課題に各2チームずつ分かれて取り組みました。

昨年までのマジプロの発表会は市内のホールや会議室で行われていましたが、22年度は同プロジェクトに対する市民のみなさまの認知度を向上させることと、幅広い見地から寄せられた意見やコメントを後半のプロジェクトに生かしていくことをねらいとして、商店街やJR小樽築港駅近くのオープンスペースで実施することになりました。中間発表会は、全チームが取組内容をまとめた大判のポスターを一斉に掲示し、その前で参加者に説明するポスターセッション形式で行われ、同じ内容をサンモール一番街商店街から小樽築港マリロードに移動して、2回実施するという大がかりなものでした。各会場では、新聞報道や告知ポスターなどを見て会場までわざわざ足を運んでいただいた市民の方に加え、買い物途中で足を止めて学生の説明を聞いたり、学生の提案に対する質問や市民の目線の意見をいただいたりする姿も多く見られました。



サンモール一番街



マリロード

Ⅱ－５．第 9 回一日教授会×マジプロ 2010

12月5日(日)、「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト(マジプロ2010)」の最終成果発表会が「一日教授会」とあわせて小樽経済センタービルで開催されました。

発表会は「商大生と市民が小樽の活性化について本気で語り合う会」として、4つのテーマについて市民の方とワークショップを行い、各班がこれまでの研究成果とワークショップから得られた意見をとりまとめて発表するという形式で行われました。

ワークショップでは、各ブースで盛んな意見交換がなされ、学生と市民が小樽の活性化についての意識を共有していきました。

4つのテーマは以下のとおりです。

- ・小樽築港エリアの活性化
- ・小樽と中国・ロシアとの交流
- ・小樽市中心市街地の活性化
- ・小樽市の歴史的建造物の利活用

取り纏め結果については以下のサイトに掲載されています。

<http://d.hatena.ne.jp/majipro/>



ワークショップ



結果報告

Ⅱ－６．平成 22 年度 CBC セミナー

ビジネス創造センター(CBC)は、2月23日(水)オーセントホテル小樽において、観光におけるITの活用をテーマに「平成22年度CBCセミナー」を開催しました。

まず講演として、アトプレネーシップ専攻の近藤公彦教授がインターネット上の仮想空間を活用して商店街の活性化を図るi-vacsと、狸小路商店街(札幌市)での実践活動について報告を行いました。ついで社会情報学科の深田秀実准教授が、携帯電話を利用したAR(拡張現実感)

による小樽運河エリアの観光情報サービス実験の結果を発表しました。

後半は、2名の報告者にユーザー側として小樽観光協会専務理事の赤間元氏が加わり、大津晶副センター長の司会でパネルディスカッションが行われました。約40名の参加者は熱心に聞き入り、後半にはパネリストと参加者が活発なディカッションを持ちました。プログラムは以下のとおりでした。

- i-vacsによる地域活性化の取り組み ～狸小路商店街を舞台として～
近藤公彦（小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授）
- 新しいモバイル観光情報サービス ～小樽運河エリアを事例として～
深田秀実（小樽商科大学商学部社会情報学科准教授）
- パネルディスカッション「観光におけるIT活用」
近藤公彦
深田秀実
赤間 元（社団法人小樽観光協会専務理事）
司会：大津 晶（小樽商科大学ビジネス創造センター副センター長・社会情報学科准教授）



近藤公彦教授



深田秀実准教授



パネルディスカッション



会場の様子

Ⅱ－7. 平成 22 年度

小樽商科大学ビジネス創造センター産学官連携研究成果報告会

3月25日(金)にACU [アキュー] (札幌市中央区北4条西5丁目, アスティ45内)にて「平成22年度小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)産学官連携研究成果報告会」を開催しました。

今回は、「観光におけるIT活用」をテーマとして、2本の報告とパネルディスカッションを行いました。参加者は約50名で、「今後の実用化への期待」や「商店街活性化の必要性」について意見が寄せられました。スマートフォンの実演も好評でした。

プログラムは以下のとおりです。

- i-vacsによる地域活性化の取り組み ～狸小路商店街を舞台として～
近藤公彦 (小樽商科大学大学院アントレプレナーシップ専攻教授)
- スマートフォンを活用した観光情報サービス ～小樽運河エリアを事例とした新しい取り組み～
深田秀実 (小樽商科大学社会情報学科准教授)
兵藤雄二 (NTTコムウェア株式会社)
- パネルディスカッション「観光におけるIT活用」
近藤公彦
深田秀実
菊池 恒 (北海道商店街振興組合連合会副理事長・
札幌市商店街振興組合連合会理事長・札幌狸小路商店街振興組合理事長)
土門 亨 (オフィスITM代表・小樽商科大学CBC学外協力スタッフ)
司会：海老名 誠 (小樽商科大学ビジネス創造センター長・教授)



近藤公彦教授



深田秀実准教授



兵藤雄二氏



パネルディスカッション
左から海老名誠センター長、菊池恒氏、
土門亨氏、深田秀実准教授、近藤公彦教授